

名古屋介護系柔道部 御中

## ゼロから分かる「発達障害」（2022年2月25日）開催追加補足資料

Man to Man Animo 株式会社

事業本部長 中島貴弘

大変多くのご質問をいただきながら、時間の関係でしっかりと回答できていないため、捕捉いたします。

### Q1

発達障害、ADHD など用語がいろいろあってわかりません。親からも「この子は障害者なので」と言われ配慮しているつもりですが、事故の危険性もあって厳しく指導せざるを得ない場面もあり、どうしたら良いのか悩んでいます。パワハラや言葉の暴力にもつながる問題なのかもしれません。

### A1

- ① 発達障害について：発達障害には、色々な種類があります。最近では、発達障害について様々なサイトで情報が掲載されており、参考までに厚労省の「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」サイトから、特徴を抜粋してみました。

#### 1. 自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）

##### 【主な特性】

- ・相手の表情や態度などよりも、文字や図形、物の方に関心が強い。
- ・見通しの立たない状況では不安が強いが、見通しが立つ時はきっちりしている。
- ・大勢の人がいる所や気温の変化などの感覚刺激への敏感さで苦労しているが、それが芸術的な才能につながることもある。

##### 【配慮のポイント】

- ・本人をよく知る専門家や家族にサポートのコツを聞く。
- ・肯定的、具体的、視覚的な伝え方の工夫（「○○をしましょう」といったシンプルな伝え方、その人の興味関心に沿った内容や図・イラストなどを使って説明するなど）。
- ・スモールステップによる支援（手順を示す、モデルを見せる、体験練習をする、新しく挑戦する部分は少しずつにするなど）。

・感覚過敏がある場合は、音や肌触り、室温など感覚面の調整を行う（イヤーマフを活用する、大声で説明せずホワイトボードで内容を伝える、人とぶつからないように居場所をついでなどで区切る、クーラー等の設備のある部屋を利用できるように配慮するなど）。

## 2. 学習障害（限局性学習障害）

### **【主な特性】**

・「話す」「理解」は普通にできるのに、「読む」「書く」「計算する」ことが、努力しているのに極端に苦手。

### **【配慮のポイント】**

- ・本人をよく知る専門家や家族にサポートのコツを聞く。
- ・得意な部分を積極的に使って情報を理解し、表現できるようにする（ICTを活用する際は、文字を大きくしたり行間を空けるなど、読みやすくなるように工夫する）。
- ・苦手な部分について、課題の量・質を適切に加減する、柔軟な評価をする。

## 3. 注意欠陥多動性障害（注意欠如・多動性障害）

### **【主な特性】**

・次々と周囲のものに関心を持ち、周囲のペースよりもエネルギッシュに様々なことに取り組むことが多い。

### **【配慮のポイント】**

- ・本人をよく知る専門家や家族にサポートのコツを聞く。
- ・短く、はっきりとした言い方で伝える。
- ・気の散りにくい座席の位置の工夫、わかりやすいルール提示などの配慮。
- ・ストレスケア（傷つき体験への寄り添い、適応行動ができたことへのこまめな評価）。

## 4. その他の発達障害

### **【主な特性】**

体の動かし方の不器用さ、我慢していても声が出たり体が動いてしまったりするチック、一般的に吃音と言われるような話し方なども、発達障害に含まれる。

### **【配慮のポイント】**

- ・本人をよく知る専門家や家族にサポートのコツを聞く。
- ・叱ったり拒否的な態度を取ったり、笑ったり、ひやかしたりしない。

・日常的な行動の一つとして受け止め、時間をかけて待つ、苦手なことに無理に取り組まず、できることで活躍する環境を作るなど、楽に過ごせる方法を一緒に考える。

- ② **安全配慮**について：「安全管理」と「他者への攻撃」には厳しが必要です。ダメなことはダメ。肝心なのは障害のある子もない子もちゃんと理解すること。理解の仕方が様々で入りにくいお子さんもいらっしゃいますが、根気よくその子が分かる方法を探ることが大切だと思っています。

## Q2

発達障害という言葉を知るまでは「個性的な子だな」とか「このまま大人になって社会にでると大変だな」程度で接していました。私が子供の頃を思い返すとクラスに何人かは今でいう発達障害のクラスメイトもいましたが、今では土建屋の社長とかになっています。柔道指導を30年ほどやっていますが、この10年ぐらいで急激に増えてきたような気がしますが、社会全体でも増加しているものなのでしょうか。

## A2

お感じの通り何年前（何十年かも？ごめんなさい・・・笑）にはクラスに存在していました。受け入れられる環境があったと考える一方で、必要な支援がなされていなかったともいえる時代です。この場合もどちらに当たるのかは、本人の生きづらさや困り感によって判断すべきだと考えています。

また、不適切な行為には理由があるという見方もあります。目立ちたい、かまってもらいたい、授業についていけない、その時やりたくない・・・など。一旦受け止めたうえで認知の特性や感情面を理解する姿勢が求められると思います。社長になれる人の多くは発達の特性を持っているのではないかと逆に思う時もあります。一つのことに執着することは、否定的に見ればこだわりですが、肯定的に見れば探求心であり、表裏一体なのかもしれません。どの角度で見るか、どちらから見るかで得手不得手はひっくり返ります。ぜひお子さんの苦手が良さと受け止められるような環境づくりを進めていけたらと思います。

## Q3

発達障害・知的障害・精神障害の違いがわかりません。柔道教室に来ている子供は幼稚園ぐらいから来てくれるのですが、学年が進むごとに柔道競技というよりも稽古前後の立ち振る舞いに差がでてきます。柔道指導中も話を聞く集中力が著しく低い子もいます。どのように接したら本人が楽しんでくれるのでしょうか。

A3

① 発達障害・知的障害・精神障害の違いについて：

- ・発達障害（自閉スペクトラム症）は脳機能の発達の偏りで能力にでこぼこがある。知的な躓きはな  
いが大きな偏りがある。
- ・精神障害は脳機能の神経伝達物質の働きの乱れで能力の発揮が不安定だといわれています。
- ・知的障害はおおむね IQ70 以下で、軽度・中度・重度に分類される。

勉強会でも触れましたが、二次障害として精神障害を併発している方が多くみられ、特性が似ているため  
にわかりにくいのだと思われます。

② 発達障害が疑われる子供への指導について：

立ち振る舞いや集中力については、それこそ障害であると思います。無理はせず興味を持てることを  
提供することから始め、お子さんを理解していく必要があります。その時に「入力」「処理」「出力」  
の視点で見ていただくとよいと思います。

【例】

入力：話を聞かなくてはいけない指示が認識されているか

処理：話を聞こうとしているか

出力：話を聞けているか

それぞれ躓く理由がわかると解決策も考えやすくなるかもしれません。

これが正解というものはありませんので、一事例としてとらえていただきたいです。困難事例や解決事例  
はぜひ横展開できるよう今後も指導者さま、支援者さま同士の情報交換が続けられたらと思っています。

以上